

2010年7月5日

加盟各労働組合執行委員長殿

全国一般労働組合全国協議会
中央執行委員長 中岡基明



物流システム事業所閉鎖抗議FAXの要請

別紙要請書にあるように、洛南ユニオンは、京都南部の物流拠点でのトラック労働者の組織化に取り組んできました。残業未払問題、過労死問題、労災問題、長時間労働問題、最低賃金割れ問題など、トラック労働者の悲惨な労働実態を変えさせるための闘いに取り組んでいます。

その中で、株式会社物流システムは、組合つぶしのために、事業所丸ごと閉鎖の攻撃をかけてきました。この攻撃を跳ね返すため、洛南ユニオン物流システム分会は今、全力で闘っています。支援のため、全国から、抗議FAXを集中するよう要請します。FAXを送信したら、洛南ユニオンにもFAXして下さい。

以 上

2010年7月2日

関係各位

抗議ファックスの要請

添付したチラシにあるように6月4日株式会社物流システムは洛南ユニオン物流システム分会の組合員6名が働く京都営業所を8月31日で閉鎖すると通告してきました。物流システム分会の組合員は賃金切り下げを契機にして組合結成をおこない、賃金切り下げを阻止しました。その後、未払い残業賃金の請求をしたところ労務屋が導入され団交で賃金未払いはないと開き直り、本社では第二組合が作られました。その後、会社は「組合が8時間以上働かないから」といって仕事を減らし、一人を除いて賃金が手取り18万前後に切り下げられました。明白に兵糧攻めにして会社から追い出そうとしたのです。これに対して退職した1名を含む組合員7名で残業賃金の支払いを求め2月には京都地裁に提訴しました。今回の京都営業所閉鎖・全員解雇はこの提訴に対する報復だと考えています。

洛南ユニオンには昨年来、京都南部の9社、20名ほどのトラック労働者が参加してきています。今回の物流システムの残業賃金未払いの裁判闘争をはじめすべてのトラック労働者にある残業賃金未払い、過労死した組合員の労災申請の闘い、労災で一年以上の休業をしている労働者の闘い、16時間以上の長時間労働で2年以上最低賃金割れになった労働者の闘いなど、トラック労働者の厳しい現状を反映した闘いが山積しています。これらの闘いをトラック部会を組織してトラック組合員全員で取り組む体制を確立しつつあります。京都南部の運送業者の中で洛南ユニオンの名前も広がりつつあり、トラック部会ではいつの日か京都南部のトラック労働者の賃金相場を規定できるようにがんばろう、と語り合っています。

物流システム分会はトラック部会の中心的な存在です。組合潰し、生活破壊の京都営業所閉鎖攻撃を跳ね返し、裁判闘争も含めて勝利していく決意です。

関係各位の皆様には株式会社物流システムに対する抗議ファックスをお願いしたいと思います。また今後、様々な闘いを組織する予定ですが、その都度、支援の要請をさせていただきたいとおもいますのでよろしくお願いします。

なお抗議ファックスを送っていただきましたらお手数ですが、洛南ユニオンにもファックスにておしらせください。(FAX 0774・44・3102)

全国一般労働組合全国協議会
洛南地域合同労働組合
執行委員長 田中 啓司

株式会社物流システム

代表取締役社長 佐藤良雄様

fax 072-363-0779

抗議ファックス

貴社は6月4日に突如として洛南ユニオン物流システム分会の組合員6名が働く京都営業所を8月31日に閉鎖すると通告してきました。貴社は雇用を継続したいとっていますが、京都営業所からでも2時間半以上ある堺本社になど、誰も通勤できません。実質的には京都営業所閉鎖による全員解雇攻撃です。

賃金切り下げを契機に昨年8月に結成された物流システム分会は残業賃金の未払いを請求しました。会社はこれに対して残業賃金の未払いはないと開き直り、「ユニオンが8時間しか仕事をしないと云うから仕事がなくなった」と言って仕事を減らし、ほとんどの組合員が手取り18万前後の最低補償額まで収入が減りました。物流システム分会は会社が組合員を兵糧攻めにして追い出そうとするものにとらえ、やむなく残業賃金の支払いを求め退職した組合員も含め7名で裁判に訴えました。今回の京都営業所閉鎖・全員解雇はこの提訴に対する不当な報復であると私たちは考えています。これらを踏まえ以下のことを要求します。

- 1、京都営業所の閉鎖を撤回すること
- 2、残業賃金の未払いを認め直ちに未払い賃金を支払うこと

以上

(団体名)

抗議文

物流システムは未払いの残業賃金を支払え！ 京都営業所を閉鎖するな！

◆物流システム京都営業所を閉鎖させない！◆

働く仲間の皆さん！

私たちは物流システム京都営業所で働く洛南ユニオン物流システム分会の組合員です。

6月12日の団体交渉の席上、会社は「年間2700万円の赤字」を理由に京都営業所を閉鎖することを一方的に通告してきました。私たちは京都営業所の閉鎖に断固反対します。会社が閉鎖の理由と主張する「赤字」は労働組合つぶしのために仕組まれたものです。私たちはこのような会社の意図的な事業所閉鎖＝実質解雇を絶対に認めることはできません。

◆佐藤社長の組合つぶしを許さない！◆

昨年夏の労働組合発足以来、会社は一貫して組合敵視を続けてきました。まず、団体交渉には労務屋が登場し本社では第二組合が作られました。さらに、京都営業所の6名の組合員の内、4名が定期的な仕事を外され「フリー」と言われる、その都度の仕事に変えられました。その内、2人は8月以降、ほとんど仕事がなく、毎日営業所の駐車場で時間をつぶすだけの日々が続いています。このような配車差別だけでなく、社会全般の不況を口実に営業努力を放棄して、組合員の仕事を減らし続け、賃金は最低保証額（手取りで17～18万円）にするという組合員への兵糧

攻めを1年近くも続けています。

このような兵糧攻めにも負けず

に、労組は未払いの残業賃金の支払いを求めて交渉を続けていましたが、会社は「残業賃金の未払いは無い」というかたくなな態度を変えず、昨年末に交渉は決裂しました。労組はやむなく今年2月に残業賃金未払い請求の裁判を提訴しました。

6月18日に2回目の裁判が開かれ、会社側は残業賃金の未払いがあったことを認めざるを得なくなっています。しかし会社は、これまでの団体交渉で会社が提出した残業時間を計算間違いがあったとして少なく主張したり、就業規則をねじ曲げたり、厚生労働省の「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」（改善基準告示）を無視したり…、とあらゆる手段を使って、未払い残業賃金を労組請求の1割以下に切り縮めようとしています。同時に、裁判に対する報復のように京都営業所の閉鎖を通告してきました。労組の闘いを一気に押しつぶそうという会社の狙



いは明らかです。

◆佐藤社長の組合敵視政策◆

会社は京都営業所が年間 3000 万円近くの赤字だと言っていますが、組合潰しの目的で組合員の仕事を取り上げて日干しにし、まともに営業活動をしていないのですから、赤字になるのは当たり前です。

「雇用は守る」と言うものの、堺市の本社まで京都市内から 2 時間半以上かかります。とても毎日通える距離ではありません。実質的な解雇通告です。

さらに堺本社では、新賃金制度が導入され、「6%の人件費カットで、本社の組合と会社は協定を結んだ」と聞きました。現在よりも給料が下がり、賃金の最低保証（1日1万円×所定出勤日数）も廃止と言われています。ただでさえ低い賃金で、最低保証も無しとなれば、生活が一層厳しくなっていることは明らかです。

また、京都営業所閉鎖の通知文書には困難に直面する従業員への謝罪の言葉は一切ありません。佐藤社長は組合の再三の要請にもかかわらず、団体交渉に一切姿を見せず、組合員に直接の謝罪も説明もしようとしていません。そこまでして、組合敵視・組合潰しを貫く社長・労務屋の姿勢にはあきれざるばかりです。

◆トラック運転手の命と生活を守ろう◆

昨年の夏、会社が賃金引下げ提案を行ってきたことがきっかけで、京都営業所の労働者が洛南ユニオンに加盟して分会を結成しました。以来、団体交渉を行い、賃金引下げ提案を撤回させ、多いときには月 400 時間以上にもなる超長時間労働の改善、休息なしの連続勤務や賃金差別の是正などを勝ち取ってきました。適正な時間管理をして働いた分はきちん



と支払うように、というごく当たり前の要求をしたことを逆手にとって、「8 時間しか働かないなら仕事はない」「仕事が無くて赤字になっているのは組合せいだ」と言わんばかりの嫌がらせを続けています。

洛南ユニオン物流システム分会は、物流システムを「安全で安心して働き続けられる職場」にして働きたい、と考えています。

荷主や大手配送業者の言いなりでは、苦しむのは運転手などの労働者です。「入れ込み」など違法派遣の丸投げ状態では、超長時間労働、休息なしの連続勤務、などの問題は解決されません。洛南ユニオンの組合員でも運転時間・荷待ち時間・積み下ろし時間など労働時間として計算される時間が 1 カ月に 4 2 5 時間という事例もあります。長距離トラックの労働者は土・日だけ家に帰り、それ以外はトラックで寝泊まりの生活です。どうやって帰ってきたかわからない、ふっと意識を失うことがたびたびある、など究めて危険な状態で仕事をしています。放置すればいずれ事故を起こすか、過労死に至ります。労災の 3 割は私たちトラック運転手です。交通事故の多発は社会的な問題です。

中小零細のトラック運転手の賃金は実際の労働時間で計算すれば最低賃金程度です。残業代で稼がなければ生活できず、長時間労働をせざるを得ないのが業界の実態です。規制緩和と不況で運賃のダンピングが進行し、劣悪な労働条件をさらに過酷にしています。一企業だけで解決できる問題ではなく、トラック労働者が声をあげていかなければ、何も変わりません。

会社は洛南ユニオンの組合員を兵糧攻めにすればそのうちあきらめる、事業所を閉鎖すれば追い出せる、と思っているのですが、我々も、そう簡単に追い出されるわけにはいきません。私たち自身とトラック労働者全体の生活と命の問題です。生活や産業に欠かせない輸送の安全・交通の安全は全ての人に関わります。今が正念場です。裁判闘争と、事業所閉鎖反対の闘いを総力で闘います。ぜひ私たちに応援して下さい。